

週日の説教

金 大烈 神父 2011年1月13日(木)

《肯定的な心でイエスさまを信じましょう - 疑いながら願うのではなく、固く信じて願いましょう -》

今日の第一朗読(ヘブライ 3・7 - 14)と福音(マルコ 1・40 - 45)には、話す内容がたくさんあります。でも今日は、一つだけ皆様と分かち合いたいと思います。

皆様は、『肯定的な考え方』が持っている力を信じますか。『肯定的な考え方』で生きていますか。「信じています」と言っても、実際にそのように生きていなければ、信じていることにはなりません。『肯定的な考え方』、『肯定的に考える力』を認めますか。認めていても、実際の生活の中では、否定的な考えに陥ってしまう場合が結構あります。「そんなことはありません。私はいつも肯定的に考えています。」と言える人は、たぶん人との関わりで、ぶつかったり、怒った顔や悲しい顔をしたりしないのでしょうか。しかし司祭の目で見ると、皆様はよく怒った顔、悲しい顔をしています。

では、『肯定的な考え方』、『肯定的に考える力』とはどういうものを言うのでしょうか。それはたぶん人によって違うと思います。

たとえば、『蒸気機関』が発見されて『蒸気機関車』というものができましたね。大きな乗物が蒸気力で初めて動いた日、その乗り物が動くのを見せる前には人々の気持ちは二つに分かれたと思います。「人間の技術が進歩したのだから、本当に動くだろう。」と肯定的に考えた人がいる半面、「あれは絶対に動かないだろう。」と否定的に考えた人もいたでしょう。また、『蒸気船』というものがありますね。それまで風力や人力(人間の力)によって動いていた舟が、ある日蒸気力で動くようになります。何百年前か分かりませんが、初めて蒸気船が動く時、それを見るためにたくさんの人々が集まったと思います。その中には、蒸気船を肯定的に考えた人もいれば、「あのように大きい船が自動で動くなんてありえない」と否定的に思った人もいたでしょう。船よりもっとあり得ないのは、大きい物体が空を飛ぶことでしょう。私は今でも飛行機に乗りながら、どのようにして飛んでいるのかよく分からなくなります。いくら頭を使っても理解が出来ないので。きっと、初めて飛行機が飛んだ時、人々は想像さえ出来なくて、やはり否定的な気持ちになった人もいたのでしょう。

とにかく、人間の肯定的な考え方が今の時代を作ったのは確かなことです。否定的な人は、船が動けば、「確かに動くが、行ったきりで戻って来られないのではないか。」とか、「止まれないのではないか。」という考え方をするのでしょう。飛行機が飛べば、「あれは着陸できないのではないか。」「落ちて、壊れてしまうのではないか。」と思うのでしょう。

さあ、今日の福音を考えてみます。重い皮膚病、つまりライ病にかかった人が出てきますね。ライ病は、今では治療のできる病気になりましたが、2000年前は、本当に呪われた病気、罪の結果の病と言われていました。何と云っても見た目に症状が分かります。体が崩れてしまいます。誰の目にもふつうの顔でないことが分かります。死ぬまでそのような呪われた体、病気を持って生きなければな

らないのです。そして家族からも追い出され、村にも入れなくて、不幸な自分を呪う人生だったのでしょう。そのような人が、「あなたがお望みならば、私は癒されます。」とはっきり願ったのです。これはやはり、『肯定的に考える』力だと思います。私たちも何かを願いますが、半分以上は疑いながら願っています。この皮膚病の患者も、あなたの望みなら、私は癒されます。」という強い希望を持ち、肯定的に考えられたから、その力によって癒されたのです。私たちは、無理だと思ってしまうことがよくあります。しかし、「正しい希望ならば、神様が必ずかなえてくださる」と固く信じること、子どものように信じる必要があるのです。

私たちも『肯定的な心』で、イエス様を信じましょう。

ありがとうございました。